

令和3年度3回外国人材受入れに関する専門部会 議事概要

- 1 日時 令和3年12月21日(火) 13:30～14:10
- 2 場所 市役所本庁舎 10階 10-2会議室
- 3 出席者 辻会長、早川委員、ファン委員、村山委員
菅沼アドバイザー
経済部 農林課
福祉部 介護保険課
保健衛生部 保健医療課
ぎふ魅力づくり推進部 観光コンベンション課
(事務局：国際課)

4 議事内容

外国人材受入れに関する調査報告書(案)について

事務局からの説明の後、以下のとおり質疑及び意見があった。

【質疑】

(1) 調査報告書案(資料2)について

- ・委員から、1ページにアンケート結果を踏まえた本市の現状として、「事業所の約2割で外国人が雇用されており」と記述されているが、**この2割はアンケートを依頼し、回答のあった58.2%の2割なので、誤解を招かないように詳しく記載すべきとの指摘があり、回答が得られた事業者の2割であることを追記することとした。**
- ・委員から、1ページに今後の多文化共生推進についてとして、「今後も幅広く取組を進めていくことを期待する」と記述されているが、「**幅広く取組を**」というだけでなく、**具体的な取組を例示する等、詳しく記述すべきではないかとの意見があり、これまでの審議において意見として挙げられた取組等を参考に追記することとした。**
- ・委員から、4ページに行政に求める支援についてのアンケート結果が記述されており、その中で行政に求める支援が「特にない」という回答も多かったという一文があるが、**この部分は不要ではないかとの意見があり、事務局から、商工業や宿泊業において、支援の必要がないという回答が多かったため、記述したものとの説明があったが、アンケートの結果は9ページに資料7として記載されており、あえて記述する必要はないとの結論に至り、この部分を削除することとした。**
- ・アドバイザーから、1ページにアンケート結果を踏まえた本市の課題として、「コミュニケーション」、「日本語能力」が記述されているが、もう少し幅広く記述することを検討すべきではないかと意見があった。

- ・アドバイザーから、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で減少傾向であるものの、市の人口が40万人である中、8,000人以上の外国人が在住しており、彼らはかけがえのない市民であるので、そのことを報告書の中に記述してもよいのではないかとの意見があり、追記することとした。
- ・アドバイザーから、第1回の専門部会の資料において、令和4年度以降の展開として、新たな組織の立ち上げを検討していくとの説明があったが、組織に関して報告書の中でなんらか記述する必要はないのかとの質問があり、事務局から、当専門部会の調査事項は外国人材受入れに関する調査と課題の整理とされているので、組織等については、庁内で検討していきたいと回答。

(2) その他

- ・業務において知った方が、海外での駐在経験を通じて、異文化対応の重要性や難しさを体験したため、相手の立場に立って業務を進めていきたいと言っていた。また、日本語教育能力検定に合格していることから、それを活かして日本語教育にも取り組みたいとも言っていた。この方のように自分自身が外国で生活したことがある人は、多文化共生に造詣があると感じている。その方から日本語教育等について話が聞ければ、今後の多文化共生推進会議の中でも紹介していきたい。
- ・今回の専門部会を通じて、外国人労働者の側に立った経営者等の意見を聞き、外国人労働者の一人として感謝している。また、報告書の内容についても、外国人労働者の立場を思う内容になっており、市がこういった取組をしていることを、より多くの外国人に知ってほしいと感じた。多文化共生推進会議に報告するとのことで、推進会議のメンバーには外国人も多く含まれているが、より多くの外国人に知ってもらえるような情報発信も検討してほしい。
- ・外国人雇用については、単に人材不足ということだけでなく、日本人がやりたがらない仕事を外国人が担い、かつ、それを低賃金で担っているというのが世間一般的なイメージであるが、これまでの審議の中で、外国人は共に働く仲間であるという認識・姿勢が重要であると改めて感じている。外国人、日本人ということではなく、外国人を個人として、一人の社員、仲間として対等に尊重していく必要がある。
- ・生活に困窮した方を対象に行った事業で、対象者に外国人も多く含まれており、それ以外で外国人に接する機会もあまりなかったことから、その時のイメージで外国人を見ていたが、審議を通じて、会社や地域における仲間として見ていくよう、目線・視点を改める必要があると感じた。また、同じ岐阜市民として丁寧に接していくことで、新たに多くの外国人を呼び込んでいけるということも重要な考え方であると感じた。

- ・市全体40万人で言うと、毎年1万5千人程度の人口流入と人口流出があり、外国人で言えば近年1,000人程度の人口減少があったとのことであるが、逆に言えば、きっかけがあれば、その程度の規模の人口の移動・流入がありうるということなので、魅力的なまちにしていけば、外国人もすぐに戻ってくる。

(3) まとめ

- ・会長から、調査報告書案については、**本日の審議内容を踏まえ修正し、会長確認の上、最終の調査報告書とすることを委員に諮り、委員了承。**